

鉄道と道路 —多様化する社会のために—

Railways and Roads -For diversifying society-

特集担当主査：東隆介

特集担当副主査：田中佑児

特集企画担当：犬塚真一、真名子武、北村元、勘定茂

特別委員：深瀬尚子

交通分野の変革期の到来

新型コロナウイルス感染症のまん延により、日本の経済は大きな打撃を受けた。土木分野においてもその影響は大きく、特に公共交通事業者については感染拡大によって利用者が激減し、経営に多大な影響を受けた。また、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、人々の意識や価値観、行動が大きく変化した。テレワークやエコマースなど、人の移動を伴わない働き方・暮らし方が普及したことにより、公共交通に求められるサービスが変化している。例えば、オンラインの浸透により、移動自体が減り、移動に対するコストや時間がシビアに評価されるようになってきている。また、大量輸送や速達性だけでなく、密を避けた移動などの新しいニーズも生まれてきている。公共交通事業者は収入構造の見直しや新たな生活・ニーズに合わせたビジネスの生み出しなど、大きな変革の時期を迎えることになった。

国土論から見る 「鉄道」と「道路」

一方で、国土論の観点から見ると、人々の暮らしや社会の変化と公共交通の発展には深い相関がある。国土の発展や人々の生活の変化に合わせて、水上、道路、鉄道、航空と交通が進化を遂げてきた。中でも鉄道と道路は鉄道が先発、道路が発発として補完し合いながら、時に国力の象徴として、時に経済発展の必要性から発展してきており、その歴史は人々の暮らしや社会とは切り離せない（詳細は座談会を参照していただきたい）。新型コロナウイルス感染症の流行を契機とした、先行きの見えない多様化する社会における交通の在り方についても過去の国土論や交通の歴史から見えてくるものがあるのではないかと考える。

多様化する社会における 鉄道・道路の未来像

本特集では、国土論の観点から人々の暮らしと鉄道・道路の歴史をひもとくとともに、「鉄道」と「道路」に焦点を当て、両者の近年の動向や共通する課題・取り組みについて、対比を交えながら紹介することで、ポストコロナ社会を含めた多様化する社会にお



写真1 日本初の鉄道(新橋―横浜間)開業～東京八ツ山下海岸蒸気車鉄道之図～(出典:東京都立博物館)



写真2 日本初の高速道路(名神高速道路栗東―尼崎間)開業(出典:高速道路～草創期の記録～)



写真3 日本の鉄道発祥の地「0哩標識」(上)(提供:公益財団法人 東日本鉄道文化財団)

写真4 主要国道7路線の起点標「日本国道路元標」(右)



ける鉄道・道路と国土の未来像を描けるよう、記事を展開した。

特集の前半では鉄道と道路の発展の歴史を年表で対比して紹介した上で、座談会において「鉄道」と「道路」

が国土形成において担ってきた役割を振り返るとともに、多様化する新しい時代における課題や求められる役割、未来像について話し合っていた。歴史からはじまり、未来の展望、

若手技術者へのアドバイスなど、示唆に富んだ内容となっている。

続いて、鉄道と道路に関する「近年の動向」として、新たな駅の形(鉄道)や自動運転の取り組み(道路)、バス

タブプロジェクトの全国展開(鉄道と道路の連携)について紹介する。これらの話題はポストコロナ社会においても発展を続ける交通分野の変革に関する話題としてご覧いただきたい。

次に、未来像を語る上で欠かすことができない「地方における取組み」、交通を語る上で欠かすことができない「事故からの教訓」について紹介する。

後半では、鉄道および道路に造詣が深い方に執筆頂いたコラムの後、鉄道と道路を語るうえでコアとなる話題として、「維持管理」、鉄道と道路を支える「技術」について紹介している。

以上、多様化する社会の中でも変わらず守っていかなければならないものの、成長させ続けなければならない普遍的な使命に関する話題と、幅広い内容を鉄道と道路の両者を対比しながらまとめている。

本特集をご覧いただくことによって、多様化する社会において鉄道と道路がどのような未来を迎えるのか、どのように変化していくべきなのか、土木技術者が未来像を見出す一助になれば幸いである。